

ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは！ACTニュース編集部です。今年も暑い夏が終わったら、さっそく冬支度みたいな1年でしたね。今年の冬はなかなか厳しいようなので、皆さん体調に気をつけてください。このACT NEWSは、湯河原町の小学校・中学校で実施されているACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）という活動を保護者の方や町の方にも知ってもらうための新聞です。それでは令和6年度の湯河原中学校でのACT、その前半を振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第16号 2024年12月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

ACTってなーに？

2014年度にスタートしたアート・コミュニケーション・トレーニング（ACT、旧称SST）は「人と人との関わりながら生きていくために」をテーマとする、湯河原町発のコミュニケーション教育の一環として実施しています。今年で11年目。

描く、作る、聞く、話す、書く、そして考えるといった広い意味での「アート体験」を通じて、自分自身や他者、そして社会との関わり合いの中で生きていくための力を学ぼうとするプログラムです。

このACTでは「試行錯誤」や「紆余曲折」そのものをクリエイティブな行為として推奨しています。また、ここでの個人作業・共同作業が、目標（課題）を達成するための手段ではなく、行為（活動）それ自体に価値があると考えています。

そして、この時間に生じる「生徒一人ひとりのトライ・アンド・エラー」を共感をもって支持し、それを創造性としてクラスや先生方と共有していきます。

「他者との比較による自信（＝優越感）」ではなく、自分へGOサインを出し、目の前にあるものに挑み、たとえ失敗しても自分を認めてあげられること。それらを繰り返していくことで「自分自身への信頼感」が生まれてくると考えています。

「上手くいく根拠はないけれど、やってみて良い」と自分に思える。

ここではそれを自信（＝自分への信頼感）と呼びたいと思います。その過程で「身をもってわかること→知る」、つまり、実体験から得た知恵が意識され、蓄積され、それらが次の機会に活かされることこそが「成長していくこと」と言えるでしょう。

世界の大きな変化の波の中で生活の変容を余儀なくされている現在において、「人と人との関わりながら生きていくために」というACTの主題はこれまで以上に大切なものになっていくでしょう。私たちはその社会的ニーズに応えていきたいと思っています。

「描くをかさねる」

3年生の初回は「描くをかさねる」です。

2人1組のペアになりオイルパステルでひとつの絵を描くのですが、いくつか手順が決まっています。まず、お互い1本ずつ順番に黒線を引いていきます。ポイントは、相手の線と自分の線を交差させることです。それを計6本描きます。次に、交差線によって偶然生まれた形（面）に色を乗せていき、時間が来るまで色を重ね続けます。この時も相手が塗った面の上であっても、構わず色を乗せていきます。

つまりこの絵は「相手に忖度しないで描く」ということです。「どうすればこの絵はよくなっていくかということに集中してね」と伝えてから作業をしてもらいました。

ゲームのような不思議な描き方。生徒たちはどんな感想をもったでしょうか？「自分が想像できない色の使い方があるから、自分ひとりじゃ作れない作品ができたと思う」「確かに普段、周りに合わせて生活することは大切だけど



2024年5月31日(金)に3年生のみなさんと。

時には自分のやりたいことをやってみるのも大切」「楽しかった。遠慮はしなかったけど、あきらめはした」「全く違う構造をひとつにするのが面白かった」「色を重ねたり、単色でいるんな塗り方をしたりして『表現できない色→感情』みたいだなと感じた。それはまさに『抽象的な色だ』と思った」などなど。

「あそんだ地図」



2024年6月7日(金)に1年生のみなさんと。

1年生の1回目は恒例の「あそんだ地図」。小学生の頃に「誰と、どこで、どんなあそびをしたか」を思い出して、自分なりの地図として描いていきます。最後にそれをグループ内で発表し合う、ちょっと変わった自己紹介。地図を描くということも、それを友達に説明するというのもなかなか難しいものです。なのでうまく

描けない、話せない生徒もたくさんいます。だけど、苦手は苦手でもいい。できることをできるだけでOK。それよりも自分のことを知ってもらえた嬉しさ、友達のことを知ることができた楽しさ。そういうコミュニケーションが大切です。

生徒たちからは「中学校に上がって急激に時間が授業や部活に使われて時間が少なくなっていることに気づいた。高校生になると町内だけじゃなくなって、時間も今よりも無くなるから今を大切にしようと思った」「思い出しながら書くのはすごく楽しい。思い返してみるとこの街は私の楽しい思い出やいろんな気持ちがあふれているとわかって、やっぱりこの町が好きになった」「振り返ってみるとたくさんの思い出があった。友達の発表を聞いて思い出したことなどもたくさんあった。みんなの思い出が面白い話ばかりで楽しかった。以前はしょうもないことが楽しかったし、よく笑っていた」など。

「カラフル！きのこ王国」

8組の1回目は、たくさんのきのこの写真を参考に、自分だけのカラフルなきのこを作りました。

8組のACTのアクティビティは、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験という6つのねらいを満たす（ライフスキルを学べる）ように設計されています。

ちょっと専門的にいうと、スキルは生まれつきの性格（自然習得するもの）ではなく、学習によって身につける「技術」として捉えられます。この技術は「ある／ない」という決定論的なものではなく、誰もが持っている前提で「高い／低い」というレベルで考えられるべきと言われています。

そのため、8組でのACTの役割は（1）スキルの重要性を気づいてもらうこと（2）その習得への意欲を引き出し、支援すること（3）学習と体験を繰り返すプロセスを提供すること、の3つに整理することができます。



2024年6月21日(金)に3年生のみなさんと。

また同時に、人は本来「自分らしく」あることで生きていける存在です。自分らしくあるには、どうしても「ふれあい」が必要です。人間は人と人の中で自分を定める存在だからです。こういった特別支援級での学びをアート体験を通じてサポートするのもACTの役割なのです。

「Inter-View ～お互いの風景を眺める」



2024年7月4日(木)に3年生のみなさんと。

今年の新作ACT。1年生の時の「対話ってなんだろう」では「対話では聞く側の態度によって、その場の質が決まる」ということを、失敗のロールプレイを通じて楽しく体験しました。今回は実践編。ただし、対面で話すのではなく、隣りあって座り、相手の顔ではなく、同じ風景を見ながら相手の話を聴いていく時間。

テーマは「最近、思っていることを1つ」。

学校のどこで話してもOK。でも少しだけルールを。①隣に座って話を聞くこと、②相手が話しやすい雰囲気をつくること、③最後に「自分のこと」は話さずに、相手に感想を伝えること。また、内容は提出しないことにしました。「いまだから、あなただから、話せたこと」ということもあるでしょうから。

生徒たちからは「普段は話さないようなところで話せてなんか不思議だった。いつもは話さないようなことを話した」「話しやすい雰囲気を作るには隣に座ることが大切。困っている人がいるときに話しやすくなるためのコツを知ることができたいい時間だった」「友達の話を『本気』で聞けたのでよかった」「普段は話さないようなことを誰もいない静かな空間で話せてなんかスッキリした」「今まで知らなかったことやこれからしたいことなど、色々なことをインタビューすることができた。話した内容も2人しか知らないのもその特別感がよかった」などの感想がありました。

「フロッターージュ」



2024年7月5日(金)に2年生のみなさんと。

1920年代にフランスで始まったシュルレアリズムの絵画技法の1つであるフロッターージュ。簡単にいうと表面の凹凸を紙に写し取っていく技法です。このワークではベニヤ板と植物をフロッターージュします。しかも各自に配られた板には、毎年このACTで先輩たちが釘でつけた「ひっかき傷」が痕跡としてあります。

そこに「今の私」も1本の痕跡を引いてから始めます。表現をしようとしないうこと。上手く描こうとしないうこと。自分を消すほどに集中し、目の前のものと丁寧に向き合うことで、はじめて見えてくるものがあります。

生徒たちからは「ひとつのことだけに夢中になると他の余計なことを忘れられることがなかった。ふだん生活している中であまりこういうことをやらないので良い経験になった」「描いているだけでワクワクしてドキドキしてすごく楽しかった。なんて言えばいいかわからないけど、やっていてすごく楽しくて、紙に線が出てすごくうれしくて、もう、すごかった!」「ストレスが少し減ったー。ねむい…」「時間がたつにつれ、見えなかったものがひとつずつ見えるようになってくるのが楽しかった」「考えたことは『そうぞう』ではなく『じっかん』することが大事だということ」などの感想がありました。

「なすの量感画」

8組のACTは、心に感じたことをそのまま表に現し、それを講師や先生、友達に圧倒的に肯定される場を作ることによって、表現の楽しさを知り、それが生徒個々のウェルビーイング（良好な状態＝調和のとれた状態）へとつながっていくことを目指しています。

例えば、自分に対してポジティブな態度を持つこと。他者とあたたかく、満足できる信頼関係を持つこと。自己決定感を持つこと。目標と方向性を持つこと。そして、自分が成長し続けている実感を持つこと。こういった感覚を芸術体験を通じて育てていきたいと考えています。

今年の2回目は「なすの量感画」です。なすの形や手触り、匂いなどを感じながら、感じたままにのびのびと表現しました。いつもと視点を変えることで、感じ方や表現が広がることを体験します。何よりも上手/下手の概念にとら



2024年9月12日(木)に8組のみなさんと。

われずに、自分の感覚を大事に表現する楽しさを感じることを目指します。数行程ある作業を1つずつ丁寧に達成していきました。最後にみんなで鑑賞会。十人十色の個性的ななすの量感画が完成しました。

それではまた次号でお会いしましょう！